

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 自然科学研究機構

目的

研究力強化の“2つの目標”と、それを支える“4つの柱”、大学研究力強化ネットワーク構築

- 自然科学研究機構は、研究力強化を図るため、以下の目標を掲げ、大学共同利用機関法人として、機構長のリーダーシップのもと、大学の枠を超えた共同利用・共同研究、国際的最先端研究を推進する。
 目標1：世界最高水準の自然科学研究の推進：世界に広く認知される最高水準のプレミア・インスティテュートを目指す。
 目標2：世界最先端の共同利用・共同研究環境の整備：世界最先端の設備を完備し、全国の大学・研究機関等の研究者のための研究環境を整備。
- 上記“2つの目標”を達成するため、以下に示す“4つの柱”と大学研究力強化ネットワークからなる研究力強化事業を行う。
 (柱1) 国際的最先端研究の推進支援
 (柱2) 国内の共同利用・共同研究の推進支援
 (柱3) 国内外への情報発信・広報力強化
 (柱4) 研究者支援(若手・女性・外国人)



これまでの実績・進捗状況

“4つの柱”の実績・進捗状況と、大学研究力強化ネットワーク構築

- 機構長のリーダーシップのもと、研究力強化戦略会議を設置し、機構本部の研究力強化推進本部と、5つの機関の研究力強化戦略室が一体となって研究力強化を推進している。平成27年8月1日現在、28名のURAを配置している。
 (柱1) 国際的最先端研究の推進支援：国際的に最先端の自然科学研究を推進するため、大学共同利用機関として大型施設・設備を有し、国際共同研究体制を整備している。機構の米国及び欧州の海外連携拠点に海外駐在型URAを配置し(米国は平成27年9月予定)、より緊密な国際連携の推進を図っている。
 (柱2) 国内の共同利用・共同研究の推進支援：大学の枠を超えた共同利用・共同研究体制の強化・高度化や、研究動向調査のためのURAを配置し、シーズの探索を行っている。また、新分野開拓・異分野連携のためのNINS Colloquiumの開催等を進めている。
 (柱3) 国内外への情報発信・広報力強化：機構長プレス懇談会の開催等、機構長を顔とした機構広報力の強化を図るとともに、米国科学振興協会(AAAS)と連携し、EurekAlert!を活用した国際情報発信力強化を進めているほか、各機関において研究成果の発信や一般市民向けの情報発信を推進している。
 (柱4) 研究者(若手・女性・外国人)支援：若手研究者の育成・研究支援、女性研究者の雇用促進と子育て等を支援する環境整備、外国人研究者の受け入れ体制整備(ワンストップサービスの整備)など、機構全体で積極的に進めている。
- 大学研究力強化ネットワークの構築：研究大学や研究機関が、共同で取り組むべき課題等について議論を行うことを目的として設立。テーマ別のタスクフォースを立上げて、国際連携や国際情報発信など、具体的な取組みを行っている。また、我が国の大学の研究力強化に資するための提言を取りまとめ、行政等に働きかけを行った。(平成27年8月1日現在、25大学等で構成)

今後の課題と展望

- 国際共同研究拠点の整備を進めるため、混合給与による外国人研究者の招へいなどを通じた研究・人材交流を拡充する。
- 新分野開拓・異分野連携をより一層進め、そうした観点をもつ若手研究者の育成に努める。
- 国際情報発信をより積極的に展開し、自然科学研究機構の国際的認知度をより一層高める。
- 若手研究者の研究支援、女性研究者の雇用促進、外国人研究者の人材交流などの支援を進めるため、研究環境の改善と必要な制度等の整備を行い、若手・女性・外国人研究者比率の数値目標達成に向けた取組みを推進する。
- 大学研究力強化ネットワークを通じた大学等との連携をより一層強化し、研究大学群として共通する課題の解決を目指す。

フォローアップ結果

評点区分：特筆すべき進捗状況にある

全体を通じた所見

- 目的に掲げる4つの柱全てにURAが明確な役割を持ち、28名のURA(自主財源3名を含む)を配置し、海外も含め広く活用するなど、実績も上がっており、特筆すべき進捗状況にある。
 「大学研究力強化ネットワーク」を組織し、その目的のために、テーマ別タスクフォースを立ち上げ、具体的な取組を行うなど、ネットワーク強化のための今後の更なる展開を期待したい。

特に優れた点

- URAの位置づけが4つの柱に沿って、名実ともに明確となっている。CRAとDRAの連携が円滑に図られ、海外駐在型URAを含め、他のモデルケースとなることが期待される。
- URAによる国際的な情報発信に積極的に取り組んでおり、米国科学振興協会の提供するプレスリリース配信サービス「EurekAlert!」の日本ポータルを立ち上げ、国際情報発信に貢献している。

期待する点

- 国際的な情報発信については、更なる量的拡大を図り、新分野開拓や異分野連携に活かされることを期待する。